

一般質問

市政全般にわたり20人の議員が質問しました。
※4~7面にわたり掲載



現行の保険証を維持すれば 新たな事務負担も経費もかからない

沖永 明久議員《会派に属さない議員》

岸田首相は、2024年秋に保険証を廃止し、マイナ保険証の利用登録をしない人には、資格確認書を、申請によらず交付するとしています。本市の国民健康保険加入者や後期高齢者医療制度加入者のうち、マイナ保険証の利用登録をしない人を特定できるのか伺います。

健康部長 現状ではマイナ保険証を持つていない方を正確に把握することは困難です。

【再質問】 把握できていないのに、どのように資格確認書を交付するのとおもいますが、今後、システム改修が必要になるということですか。
健康部長 そのように理解



小学校給食費の公会計化について 懸念点を問う

安海 のぞみ議員《会派に属さない議員》

学校給食費の公会計化における、食材の選定、要配慮児童への対応、食べ残し対策、未納家庭への取組などの懸念点について、見解を伺います。

教育長 各校共通で使用し価格変動の少ない食材は、単価契約による一括購入をし、他の食材は引き続き各学校で発注できる仕組みを残し、公会計前と食材に変化なく今ままでおりのおいしい給食が提供できています。現在、除去食や代替食の対応はしていませんが、対応が必要な家庭には詳細な献立を提供し、弁当を持参できるようにしています。食べ残しについては栄養士が巡回残渣調査を行い、調

理方法の工夫等を行っています。残渣となったものは、各校に設置の生ごみ処理機で堆肥化し、野菜市組合に引き取っていただく取組も引き続き行っています。公会計化により、給食費の徴収に関する問題が現場から見えなくなることもありますが感じます。教育委員会として持っている課題や問題を校長会等を通じて随時報告しながら協力していこうと考えています。滞納者への法的手段という問題も出てくるかもしれませんが、子供たちには関わりたくないことだと思いますので、子供たちに悪い影響がない形で解決策を探っていきたく考えています。



JR相模線入谷駅入り口の 安全対策を急いで!

星野 久美子議員《日本共産党》

JR相模線入谷駅への入り口となる通路は、両側の農地と通路を隔てるものが何もなく、安全対策が取られていません。入谷駅は終日無人駅です。足を滑らせて転落した場合、子どもであれば溺れてしまい、命を取られる可能性も高いと言われます。農地から水が溢れて通路が冠水した事例もあります。何らかの安全対策を急ぐべきだと考えますが、見解を伺います。

都市部長 指摘のとおり、危険な状況なので、可及的速やかに対応できるように検討していきたいと考えています。また、JR東日本もコロナ禍の影響で営業収入の悪化や、入谷駅の乗降客の少なさに伴って、それほどの力を入れていない部分があると推測されるので、今後どのような方策が取れるのか、協議していきたいと考えています。



地域の支え合いであるファミリー・サポート 事業をより使ってもらえるために

長瀬 未紗議員《会派に属さない議員》

ファミリー・サポート事業は、子育てを応援してほしい人と応援したい人の会員組織により地域の中で育児の相互援助活動を行うもので、市民の力を生かした地域の助け合いであり、重要な子育て支援策です。しかし、実際の利用者や登録者からは、「利用会員と協力会員のマッチングがうまくできていない」や、「赤ちゃんと連れて窓口に何度も訪れる必要がある使用にくい」などの話を聞きます。使いやすく改善する必要がありますが、見解を伺います。

子ども未来部長 社会福祉協議会には、きめ細かく利用会員と協力会員を結び合わせ



循環型社会の実現を目指すフード サイクルプロジェクトについて

須崎 友康議員《会派に属さない議員》

現在の大量生産、大量消費、大量廃棄の社会経済システムは、複雑なバランスで成り立っている生態系や自然環境が持つ、再生能力や浄化能力を超えているため、自然環境に大きな負荷を与え、環境問題をはじめとする様々な問題を引き起こしていることが知られています。よって、そのような社会経済システムから脱却し、循環型社会を目指していく必要があります。本市において、循環型社会の形成に貢献しているのが、令和4年度から試験的に取り組んでいるフードサイクルプロジェクトです。令和4年度は291名の市民が参加し、約4トンの生ごみの減量と、約1.2トンの堆肥を生み出すことができましたが、その他の成果について伺います。

地域づくり部長 堆肥を使い、5キログラムの種芋を栽培し、収穫量は約104キログラムでした。収穫したジャガイモは、フードサイクルプロジェクト中間交流会で販売しました。専門業者による堆肥成分の分析結果は、成分比率がよく、薬物野菜にも適した堆肥で、安全性も併せて確認できました。協力していただいた農業者からは、以前から使用している堆肥よりも収穫量が増えて、よい堆肥だという感想を聞いています。



座間公園の車止めの撤去「要望」だけのプロセスで 決定 地域や弁護士への相談は必要なのか

内藤 幸男議員《自民党・いさま》

令和5年6月に地域の方から、「座間公園北東部の入口部分にあった車止めが外されているが、何がきっかけなのか」と困惑する連絡が入りました。過去に公園内に進入する車や駐車する車が頻繁にあり、公園で遊ぶ子どもたちや散策をして楽しむ方々に危険があったことから、地域の方々が市に要望を行い、それ以降、車止めが設置されていた場所です。そこで、どのような経緯で車止めを外すことになったのか。また、地域の理解を得るために自治会への説明会を行ったのか。この車止めは、平成28年に座間市が法律相談をしている弁護士に相談し、

法的根拠に基づいた対応がされているものですが、今回の対応は、その法的根拠に基づいた対応を変更したものです。市長は、決定前に弁護士に相談したのか伺います。



- ### 議会日誌
- 8/4 北海道恵庭市議会視察 来訪
 - 22 議会運営委員会
 - 24 神奈川県後期高齢者医療広域連合議会第2回 定例会
 - 29 第3回定例会本会議
 - 座間市立市民文化会館の適正ではない使用に関する調査特別委員会
 - 30 第3回定例会本会議
 - 子算決算常任委員会
 - 7/6 第3回定例会本会議
 - 議会運営委員会
 - 8 第3回定例会本会議
 - 子算決算常任委員会
 - 議会運営委員会
 - 11 企画総務分科会
 - 12 企画総務常任委員会
 - 13 民生教育分科会
 - 都市環境分科会